令和７年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　大谷　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１８日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問調査

児童質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

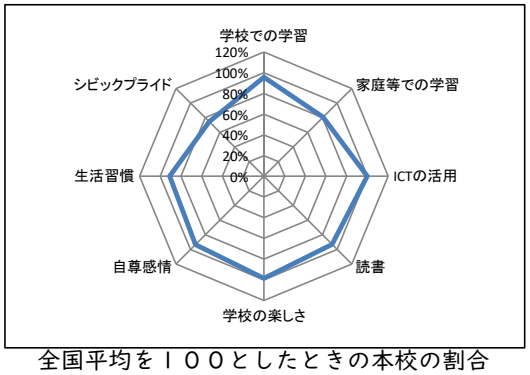
⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	内容にかかわらず、全体的に正答率が全国平均を下回っている。特に「知識および技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」などを苦手とする傾向が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	
	努力が必要な問題	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる	

算数	全体的な傾向や特徴など	内容にかかわらず、全体的に正答率が全国平均を下回っている。特に「数と計算」や「データの活用」を苦手とする傾向が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	
	努力が必要な問題	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる	

理科	全体的な傾向や特徴など	「エネルギー」領域では、正答率が全国平均を上回っている。逆に「粒子」領域や「生命」領域では、正答率が全国平均を下回っており、苦手とする傾向が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	
	努力が必要な問題	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を１００としたときの本校の割合

質問調査の結果分析

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して肯定的に回答した児童の割合が高く、友達を大切にする思いが育成されている。
○授業でのＰＣやタブレットの活用時間が昨年度に比べて増えた。今後も調べ活動等での活用や、考えを共有したり意見を交換したりする場面での効果的な活用を増やしていくようにする。
○家庭において、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式でのゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）等に費やす時間が多いことが課題である。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

「わかる・できる」を実感する授業の実践を通して、一人一人が学習に見通しをもち、課題解決に向け意欲的に取り組むことができるような工夫をする。また、スモールステップで学習を行い、基礎的な操作能力を向上させることで、基礎的な学力を身に着けることができるようにしていく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

学校だよりやホームページ、学年だよりなどで、生活習慣の課題について周知を行うとともに、課題解決に向け、より家庭と連携していくことができるように努める。また、保護者にも学習の様子などを伝えたり、スマホ安全教室の参加を呼びかけたりして、児童が安心して学校生活を送ることができるようにしていく。